

佛蘭西政令下帙卷之四



イ14  
A2790  
9



佛蘭西政令下帙卷之四

第六篇

司法ノ權ト政令ノ權ノ分チ

モシテスキュー人名ハ其着ス所ノ法律ノ精ト題セ

ル書中ニ制法行法司法ト三權ニ分テリ制法ノ

權ハ法ヲ制スルノ權ナリ此權ヲ帝議政官及ヒ

上院ニ分有ス

帝ハ議政官ト相共ニ法律ヲ企ルノ權アリ又之

レヲ許可スルノ權アリ

議政官ハ法律ヲ討論シ及ヒ投票スルノ權アリ

大正十一年四月  
大隈侯爵郵寄贈

大藏省

大藏省

本院ハ法律ヲ建國法ニ從ヒ確定アルノガ  
行法權ハ法律ヲ頒布スルト執行スルニアリ此  
權ハ國主及ヒ其管下ノ政令官署ニテ行フ  
司法ノ權ハ平民間ノ爭論ニ法律ヲ當ルニアリ  
此權ハ裁判所ニテ行フ

此三權ノ分チヲ左ニ記スル所ノ条理ヲ以テ論  
駁スルモノアリ其説左ノ如シ

司法ノ官署ハ行法權ノ支派ニシテ大權ハ唯制  
法權、行法權ト兩權ニ止マルナリ

政令官署ト司法官署ハ一ノ行法權ノ兩派ニ分

ル、モノナリ故ニ舊律ニ裁判ハ王ヨリ出ルト  
記シタルモ現今ノ建國法ノ七ヶ条ニ裁判ハ帝  
ノ名ヲ以テスト記シタルモ皆此意ナリ

司法ノ權ハ其官吏ノ誓言及ヒ其任除及其決定  
ヲ執行スルニ從フ可キ式ヲ以テ見レハ行法權  
ニ甚切近スルモノナリ

此論ハ至當ナルカ故ニ上帙ノ總論ノ部ニ於テ  
モ大權ヲ兩權ニ分チ司法ノ官署ハ行法權ノ一  
派トナシタリ

モニテスキノ大權ヲ三派ニ分チ

官吏ノ職掌ト政令官吏ノ職掌

然タラシメニカ為メノミナリ

然リト雖モ民間ノ私事ヲ規定スルノ法律及ヒ

刑ニ拘ハル法律ヲ事ニ當テ行フノ任アル裁判

所ヲ總稱シテ司法ノ權ト云ヒ公事ヲ規定シタ

ル法律ヲ事ニ當テ行フノ任アル諸官署ヲ總稱

シテ政令ノ權ト云フ

司法ノ權ハ其裁判役ノ職ハ多分廢ス可ラサル

モノナルカ故ニ政令ノ權ニ比スレハ獨立スル

モノ、如シ依テ司法ノ權ヲ行法權ニ屬セサル

一箇ノ大權ト考ヘタルハ蓋シ此獨立ノ体裁ア

ルヲ以テナル可シ

司法ノ權ト政令ノ權トノ分別ノ原則ハ千七百

九十年八月十六日廿四日ノ法律ニ左ノ文言ヲ

以テ記載セリ

司法ノ職ハ政令ノ職ト常ニ分別シテ混ス可ラ

ス故ニ裁判役ハ政令官署ノ處置ヲ攪擾ス可ラ

ス又政令ノ官吏ヲ其職掌ノ事件ノ為メニ裁判

所ニ呼出シ得可ラス

千七百九十年十月七日十四日ノ法律ニテ

文

ヲ記セリ

政令ノ官吏ヲ其公務ニ拘ハル所業ノ為メニ裁判所ニ呼出ス可ラス尤法律ニ従テ政令ノ官吏ヲ裁判セシムル為メニ上司ヨリ送りタル時ハ此例ニ非ス

千七百九十一年九月三日ノ建國法ニ此原則ヲ載セタリ第三年結果月十六日ノ命令書ヲ以テモ政令ノ事件ヲ裁判所ニ於テ知ルヲ禁セリ司法ノ權ト政令ノ權トノ分別ヲ為スニ至ルハ往時ノパールのマレノ權ノ混入ノ弊ヲ避シカ為

メナリ

民法、五ヶ条ヲ設ケタルハ亦同一ノ趣意ニシテ裁判役ニ其裁判スル訴訟ニ付キテ一般ノ規則トナル可キ断案ヲ言渡スヲ禁セリ

刑法ノ百二十七ヶ条ニモ權ノ分別ニ拘ハル事ヲ載タリ

司法ノ權ト政令ノ權トヲ分別スルノ原則ヲ施行スルニハ左ノ三ヶノ規則ニ従テ為スナリ第一裁判役ハ政令官署ノ處置ヲ攪擾シ得可ラ

第二裁判役ハ政令官吏ヲ其職掌ノ事務ヲ為シ  
ニ裁判所ニ呼出ス可ラス

第三政令官署ハ司法ノ官署ト政令官署トノ争  
権ニ付キテ裁決スルノ権ヲ有ス

第一ニ載スル規則ハ別ニ詳説セザレモ左ニ記  
スル所ノ大旨ナリ

第一司法ノ権ハ政令ノ文書ヲ改正シ得可ラス  
第二文意ニ付キテ疑アル時之ヲ解釈スルハ政

令官署ナリ  
第三司法官署ハ政令官署ニ申令ヲ宛テ得可ラ

ス

第二ニ載スル所ノ規則ハ官負裁判ヲ云フ猶下  
ニ詳説ス可シ

第三ニ載スル規則ハ司法ト政令ノ争権ニ拘ル  
モノナリ亦下ニ詳説スベシ

官負裁判

第八年ノ建國法ノ七十五个条ニ後ニ政府ノ官  
負ハ其職掌ニ拘ル處置ノ為メニハ國議院ノ許  
可アルニアラザレハ裁判所ニ於テ裁判ス可ラ

此个条ハ現今ノ建國法ノ一个条及五十六个条  
及千八百五十二年正月三十日ノ制誥ノ十三个  
条第十款ヲ以テ猶確定セリ如何トナレハ政府  
ノ官員ヲ裁判スルノ許可ノ願ハ國議院ノ總會  
議ニ於テ決スルヲ定メタレハナリ

第八年ノ建國法ニ載セタル官員ノ保護ヲ建國  
法ノ保証ト云フ

茲ニ保証ヲ請ケ得可キ官員ハ何官ナルカ保証  
ノ及ブ可キ處置ハ何事ナルカ及保証ヲ引出ス  
裁判ハ如何ナル裁判カ又官員ヲ裁判スルノ手

順ハ如何ナル手順カラ説クニシ

建國法ノ保証ヲ受クベキ官員

第五年ノ建國法ノ七十五个条ニ建國法ノ保証  
ハ政府ノ官員ニ適スト記ス此政府ノ官員ノ名  
義ハ執行事務ニ関ラサル官員ヲ除キテ云フ故  
ニ州會郡會里會ノ議員ハ評議事務ノニニ関シ  
執行事務ニ関セサルカ故ニ七十五个条ノ保証  
ヲ得可ラス州知事評議所ノ議員及國議院ノ議  
員モ亦同様ナリ所謂政府ノ官員トハ國ノ大政  
及政令ノ推ヲ分有シ政府ノ代トナリテ事務ヲ

執行スルモノヲ云フ故ニ諸文書ヲ創草スル如キ事務局ノ裨官及執行ノミノ任アル邏卒ノ如キ保護者ヲ除キテ云フナリ  
建國法ノ保証ハ政令ニ屬スル官吏ニ及ビテ司法ノ官吏及司法ノ官吏トシテ見做シタル里長副里長ニ及バズ司法ノ官吏ハ訴訟法ノ五百十  
个条ヨリ十六个条迄ニ裁判役ヲ相手取ル時ニ之ヲ保護シ裁判役ノ職掌ニ拘ハル裁判ニ對シテハ訴訟法ノ四百八十三个条ヨリ五百四十个条迄ニ之ヲ保護セリ

建國法ノ保証ハ僧侶ニ當ツ可ラス僧侶非義ノ訴ニ付キ出シタル第十年萌芽月十八日ノ法律ヲ以テ保護ヲ受ク非義ノ訴ハ後ニ明説スベシ  
第八年ノ建國法ノ七十五个条ノ適スル場合ハ左ニ述ル如ク甚タ狭シ茲ニ猶三箇ノ別格アリ即チ左ノ如シ

第一諸省長官

第八年ノ建國法ノ七十五个条ニ長官ヲ裁判スルニ国議院ノ許可ヲ要スル事ノ保証ヲ長官ニ及ボサズ然ルニ此項ハ諸省ノ長官ヲ裁



判スルニハテリビエナリノ報知ヲ受ケ制法官  
ノ命令書ヲ以テ許可スルヲ要シタリ  
千八百五十二年ノ建國法ニ後ハ長官ヲ臨  
時裁判所ノ裁判室ニ送ルハ上院ノ答ノアル  
ニ非サレハ為ス可ラス

此个条ヲ以テ見レハ刑事ニ拘リ長官ヲ裁判ス  
ルニハ國議院ノ許可ヲ要スルノ保証ヲ以テ上  
院ノ許可ヲ要スルノ保証ニ換ルカ如シ然ルニ  
民事ニ拘リテ長官ヲ裁判スルニハ如何スベキ  
ヤ

民事ニ拘リ長官ヲ裁判スルニハ政府ノ他ノ官  
員ノ如ク長官モ亦國議院ノ許可ヲ要シ七十五  
个条ノ保証ヲ受ケ得可キ事衆論ナリ如何トナ  
レハ第八年ノ建國法ノ七十五个条ニ長官ヲ除  
キタルノ旨趣ハ長官ヲ保護セサルノ主意ニ非  
ス長官ニハ更ニ一層重キ所ノ保証ヲ與フルカ  
為ナレハナリ

第二或ル官署ノ屬吏

種々ノ法律ヲ以テ記簿関稅郵便森林及公有  
品ノ官署ノ屬吏ハ其官署ノ長官ヲ許可アル

ヲ以テ裁判所ニテ裁判シ得可シ  
州ノ收納吏ノ裁判ハ州知事ノ許可アルヲ以  
テ足レリトス

此時ニ當リテハ官署ノ司長及州知事ハ國議  
院ヲ代理スルノ權ヲ以テ許可ヲ與フルナリ  
故ニ若シ許可ヲ與ヘサル時ハ之ヲ得ニカ為  
メニ國議院ニ上達シ得可シ

### 第三介税官署ノ属吏

介税官署ノ属吏ヲ其職掌ヲ奉ルノ間ニ重  
罪及輕罪ノ疑アレハ許可ナリシテ直ニ裁

判シ得ベシ

毎年歳入出ノ法律ノ畢リニ税吏ノ不正ニ科  
斂シタル金額ノ逼抑ハ許可ヲ待タスシテ許  
ルヲ許シアリ

### 建國法ノ保証ノ適スル處置

第八年ノ建國法ノ七十五个条ニ國議院ノ許可  
ヲ要スル事ノ保証ヲ設ルハ政府ノ官負ヲ其職  
掌ニ拘ル處置ノ為メニ保護シ執行事務ノ官負  
ニテ保護ス故ニ里長警部區長ノ如キ司法ト  
政令トノ職ヲ一人ニテ兼ルモノハ其政令ノ職

掌ニ拘ル處置ニ非レハ保護セス且ツ此保証ハ  
職掌ノ行ニ拘ル處置ニ非レハ適セサルカ故ニ  
在職中ニ為シタル處置ニ適スルモノニ非ス故  
ニ譬ヘハ関税或ハ森林ノ屬吏ノ在職中ニ獵ノ  
違式ヲ犯シタル時ニ當リテ七十五个条ノ保証  
ヲ求メ得可ラス

立法者ノ保証ヲ與ヘント欲スルモノハ官吏ノ  
身体ニ與フルニ非スシテ其職掌ニ與ルナリ依  
テ保証ハ職掌ニ付テ存ルモノナリ故ニ廢退ノ  
官吏モ在職中ニ為シタル其職掌ニ拘ル處置ノ

為ニ後日裁判ヲ受クル時ニ至リテ七十五个条  
ノ保証ヲ求メ得可シ

此規則ハ廢棄ノ出納吏ニハ當ツ可ラス

### 保証ヲ求ム可キ裁判

七十五个条ニ役人ニ對シテ為ス所ノ裁判ヲ區  
別セサルカ故ニ刑事ニ拘ル裁判モ償ヲ求ムル  
ニ至ル裁判モ國議院ノ許可ヲ要シ政府ノ官員  
ヲ保証スルニ民事刑事ノ別アルヲナシ  
建國法ノ保証ハ政令ヲ司法ニ對シテ保護スル  
ノ主意ニシテ公事ナルカ故ニ民事刑事ヲ論ス

ルナク皆公事ナリ

官負ヲ裁判スルノ順序及國議院ノ決定

政府ノ官負ヲ裁判スル為メニ國議院ヨリ其許可ヲ得ルニ守ル可キ式ハ民事裁判ト刑事裁判トニヨリテ差異アリ

若シ民事ノ裁判ナレハ官吏ヲ相手取ル者ハ州知事或ハ國代或ハ司法長官ノ手ヲ經テ其願ヲ國議院ニ出スナリ又直キニ之ヲ國議院ノ記録ニ出スナリ

若シ刑事ノ裁判ナレハ左ノ區別アリ

國代ヨリ裁判ヲ求ムル時ハ許可ノ願ヲ國代ヨリ司法長官ニ送り長官ハ其官吏ノ屬スル省ノ長官ニ此願ヲ報知シ諸文書ヲ國議院ニ送ル  
害ヲ受タル平民ノ願ナレハ出訴シタル後ニ非サレハ許可ノ願ヲ受理セズ此願ハ國代ノ手ヲ經テ司法長官ニ渡ス

國議院ニ於テ此事務ヲ評定スルニハ政令ノ式ヲ以テシ公明ナラス聽訟事務ノ評定トハ甚相違セリ願ヲ吟味スルニハ先ツ制法課ニ於テシ其後總議ニ掛ク

國議院ノ決定ハ三箇アリ

第一處置ノ職掌ニ拘ハラサルカ訟ヲ受タル官

吏ハ七十五ヶ条ノ保証ヲ受クベキ官吏ナラサ

ルカ平民ヨリノ許可ノ願ハ出訴ノ後ニ非サル

カノ訴ケヲ以テ評定ニ及ハサル事ヲ布令スル

事

第二處置ノ慥ナル証據ナキヲ以テ願ヲ拒ム事

第三裁判ヲ許ス事

但シ此時ノ決定書ハ其道理ヲ載セス如何ト  
ナレハ決定書ヲ以テ官吏ヲ害スルヲ欲セサ

レハナリ

争推

争推ノ義ハ両官署ニテ推ノ適不適ヲ争フヲ云

フナリ

若シ政令ノ推カ或ハ司法ノ推ノ一推中ノ両官

署ニテ推ヲ争フ時ハ之ヲ名ツケテ裁判ノ争推

ト云フ

若司法ノ官署ト政令ノ官署ト推ヲ争フ時ハ之

ヲ名ツケテ職掌ノ争推ト云フ

裁判争推ナルモ職掌争推ナルモ争推ニ付キ進

取ト忌避トノ二種アリ  
進取ノ争推ハ双方ニテ事件ノ已レニ適スルヲ  
主張スルナリ忌避ノ争推ハ双方ニテ事件ノ已  
レニ適セサルヲ主張スルナリ尤双方ノ中一方  
必ス適スル所アリ  
司法ノ裁判争推ハ訴訟法ヲ以テ規定シマレハ  
茲ニ説カス政令ノ裁判争推ハ既ニ説キタル如  
ク國議院ニ適スルモノナルハ亦茲ニ説カス  
職掌ノ争推ハ國議院ニ於テ帝ノ自ラ裁判スル  
モノニシテ分推ノ原則ニ拘リ即チ茲ニ説ク所

ノ題目ナリ

職掌争推ノ畧紀

舊法ニ從テハ國王ハ司法及政令ノ首領タルヲ  
以テ其評議所ニ於テ争推ヲ裁決スルノ任ヲ受  
ケタリ  
アサンブレールコンスタブルアンストノ時ニ分推  
ノ原則ニ從ヒ千七百九十年十月七日十四日ノ  
法律ヲ以テ争推ヲ裁決スルハ長官ノ會合ニ於  
テ王自ラ為ス  
第三年結果月廿一日ノ法律ヲ以テ争推ヲ裁判

スルハ主宰職行法ニ歸シタリ

コニシテル職ノ建國ノ頃第八年雪月五日ノ決定

書ヲ以テコニシテル職ヨリ送リテ受ケテ國議院

ニテ争推ヲ裁決セリ

第十年霧月十三日ノ決定書ヲ以テ争推ヲ許ル

ノ式ヲ定メリ

君民共治ノ建國ノ頃争推ヲ裁判スルハ國議院

ニ於テ王自ラ裁判セリ此頃争推ニ付キテニツ

ノ命令書ヲ出セリ是現今ノ制度ノ原則ナリ此

ニツノ命令書ハ即チ千八百二十八年六月一日

ノ命令書及千八百三十一年三月十二日ノ命令  
書ナリ

千八百四十八年ニハ其頃ノ建國法ノ八十九个

条ニ從テ争推裁判所ヲ設ケリ此頃ハ半ハ國議

院ノ議員半ハ駁議裁判所ノ議員ニシテ司法長

官之ニ首坐ス若シ司法長官不在ナル時ハ文部

長官之ニ代リテ首坐ス國代ノ勤務ハ駁議裁判

所ニ於ル代言人及ヒ謁者代ル之ヲ勤ム

千八百五十二年ノ建國法ニ從テハ政令ノ裁判

争推ノ如ク職掌争推モ亦國議院ニ於テ帝王之

ヲ裁決ス

現今ノ制度

争権ノ事件ハ千八百二十八年六月一日ノ命令書ヲ以テ規定シ千八百三十一年三月十二日ノ命令書ヲ以テ之ヲ改正セリ此兩命令書ハ争権ヲ訴ルノ権ヲ制限シ人民ヲ保護スルノ主意ニ出タリ

此兩命令書ハ進取ノ争権ニノ三拘リ忌避ノ争権ニハ関セス

進取争権

今茲ニ争権ヲ訴テ受ル所ノ裁判所之ヲ起スベキ道理之ヲ起スベキ期會之ヲ為スノ順序ヲ説ク可シ

争権ノ訴ヲ受クベキ裁判所及受ク可ラサレ裁判所

刑事ニ拘リテ刑事裁判所ハ争権ノ訴ヲ為スルハ決シテ之レナシ蓋シ刑事ハ政令官署ノ共リ知ル可ラサル事ナルカ故ニ依令勘定役ノ金ヲ冒認シタル時其勘定ヲ検査スル如キ在前ノ吟味ニシテ政令官署ニ適スベキト雖モ争権ノ



訴ヲ為スハ之ヲ禁セリ如何トナレハ刑事ハ人  
民ノ名誉ヲ保護スル重大ノコトニテ政令ノ處  
置ヲ以テ司法ノ處置ヲ淹滞スルハ法律ノ欲セ  
ザル所ナレハナリ  
懲戒ノ事件ニ於テハ左ノ二ツノ場合ニ於テ争  
推ノ訴ヲ為シ得ベシ  
第一犯罪ノ懲戒ヲ法律文面ヲ以テ政令官署ニ  
歸シアル時

但シ大道ノ違反ハ州知事評議所ニ適ス故ニ  
若シ此違反ヲ裁判所ニテ裁セントスル時ハ

### 争推ノ訴テリ

第二法律ハ文面ヲ以テ政令官署ニ歸シアル  
前ハ吟味ヲ懲戒裁判所ニ於テ裁判スル時

但シ前ニ説キタル如ク公業ノ起本人ハ其公  
業ヲ行フ為メニ州知事ノ決定書ヲ以テ示シ  
アル平人ノ土地及其物品ヲ損害スルノ推ア  
リ然ルニ若シ此起本人平人ノ所有ノ推ヲ犯  
シタルノ罪ヲ以テ懲戒裁判所ニ呼出サレ起  
本人ハ既ニ許可アルヲ以テ之ヲ犯スノ推ア  
リト言フ時ハ即チ是在前ノ吟味ニシテ争推

ノ訴アリ

刑事及懲戒ノ事件ニ付テ争推ノ訴ノ推ヲ制限  
シタルハ司法ニ拘ル事件ノ推ニシテ民事ニハ  
及バス

争推ノ訴ヲ治安裁判役ニ為シ得ベキヤ否

民事ニ於テモ警部ノ事件ニ於テモ争推ノ訴ナ  
シ如何トナレハ治安裁判役ニ争推ノ訴ヲ為ス  
ノ手順ハ規定スルヲナシ殊ニ争推ノ訴ハ郡ノ  
裁判所ニ起訴スルヲアレハナリ  
争推ノ訴ヲ貿易裁判所ニ為シ得ベキヤ否

前ニ記スル所ノ道理ト貿易裁判所ノ裁判役ハ  
治安裁判役ノ廃棄ニ得ベキ如ク亦交換ニ得  
キノ理ト貿易裁判所ニハ國代ナキノ理トヲ以  
テ争推ノ訴ナシ

此理ヲ以テ公用買上ノ理リトニ争推ノ訴ヲ為  
スヲナシ

争推ノ訴ヲ駁議裁判所ニ為シ得ベキヤ否

千八百二十八年ノ命令書ノ二一四ヶ条ヲ以テ  
終審ノ裁判ナル時ハ之ヲ許サス

此ノ如クナレハ争推ノ訴ハ民事ニ於テハ唯郡

ノ裁判所ト上等裁判所トノミニ為シ得ベシ

争権ノ訴ヲ起スベキ道理及起テ可ラサル

道理

争権ノ訴ハ司法ノ官署ニ出シタル事件ヲ政令  
官署ニテ知ルノ権アルヲ望ムニアリ譬ハ前  
ニ説キタル公業ノ施行ノ為メニ生シタル永久  
ノ損害ノ争権ノ如シ此事件ニ拘リテノ争権ハ  
千八百四十八年ニ設ケタル争権ノ裁判所ニ於  
テ州知事評議所ニ適スト定メタリ  
司法ノ官署ニ支派タル公用買上ノジエリニ適

スルノ名ヲ以テ争権ノ訴ヲ民事裁判所ニ為シ  
得可ラス如何トナレハ政令官署ニ於テ自ラ  
件ヲ知ラント欲セサレハ争権ノ訴ヲ為シテ民  
事裁判所ノ不適ノ権ヲ責ム可ラサレハナリ  
千八百二十八年ノ命令書ニ後ニ争権ノ訴ヲ為  
シ得可ラサル事左ノ如シ

第一政府ノ官負ヲ裁判スルニ國議院ノ許可ナ  
クモ或ハ公用ノ建設ニ拘ル訴訟ニ付キ州知事  
評議所ノ許可ナキ時  
第二願書ヲ出スニ在前ノ式ヲ満サレ時

但シ平民ノ國州或ハ里ヲ相手取りテ訴訟ス  
ル時手續キ書ヲ前以テ出シ置カサル時ノ如  
シ

争權ノ訴ヲ為ス期會

争權ノ訟ハ終審ノ裁判アレハ為シ得可ラス故  
ニ駁議裁判所ニ争權ノ訴アル事ナニ若シ裁判  
ノ終審ナラサル時ハ争權ノ訴ヲ上司ニ為シ得  
ベシ然レモ其事件ノ上告ヲ上司ニテ未タ受ケ  
サルノ前ハ勿論事件ノ初審裁判ノ時抗傳ノ  
判ニシテ抵抗ノ期限未タ滿タサル前ニ争權ノ

訴ヲナシ得可ラス

終審裁判ノ後ト雖モ争權ノ訴ヲ為シ得可キ場  
合アリ即チ政令官署ニテ争權ノ訴ヲ為ス以前  
ニナシタル不適當ナル事ノ告知ヲ裁判所ニ於  
テ受ケス又争權ノ訴ヲ起スノ許シアル定限ノ  
尽クルヲ待タスシテ裁決シタル時ナリ

争權ノ訴ヲ為スノ手順

争權ノ訴ノ手順ハ二ノ期限ニ區別ス

第一争權ノ訴ノ起ル可キ裁判以前ノ期限

第二争權ノ訴ヲ裁決スルノ任アル國議院ニ達

スル以前ノ期限

第一ノ期限

争権ノ訴ヲ起スノ權ハ初審裁判所ノ設ケアル  
州ノ知事ニ屬ス上等裁判所ニ越訴スルモ同様  
ナリ

不適當ナル事ノ告知

州知事ハ争権ノ訴ヲ起ス以前ニ司法ノ官署ニ  
前以テ其事件ノ其官署ニ適セサル事ヲ告知ス  
ルヲ要ス

告知ハ國代ニ宛テ送ル國代ハ之ヲ裁判所ニ通

シ之ニ我カ見込ヲ附ス

政令ノ官署ニ關係ナキ時ト雖モ告知ヲ為スニ  
ハ妨ケナシ

若シ州知事國或ハ州ヲ代シテ事件ニ加ハリタ  
ル時ニ不適當ナル事ノ告知ヲ裁判所ニテ採用  
セサル時ハ分権ノ原則ノ保護者ノ名義ヲ以テ  
更ニ告知ヲナシ得ベシ

告知ニ付テ裁判所ニ於テ決定シタル上國代  
ハ決定ヨリ五日中ニ已レノ見込書ノ寫シ及ヒ  
決定ノ寫シヲ州知事ニ送ル此送リノ日付ハ肝

要ナリ如何トナレハ争推ノ訴ヲ起ス為メニ州  
知事ニ許シアル十五日ノ期限ハ此日ヨリ算フ  
レハナリ

裁判所ノ決定

告知ヲ受ケタル時ニ決定ニ二様アリ即チ裁判  
所ニ於テ告知ヲ採用セヌ已レテ適當ノ官署ト  
決スルカ或ハ告知ヲ採用シ已レテ不適當ノ官  
署ト決スルカナリ  
告知ヲ採用セサル時ハ州知事ハ裁判所ニ争推  
ノ訴ヲ為シ得可シ若シ此訴ヲ為サズ事件ノ上

告アル時ハ其上告ヲ受ケタル上司ニ更ニ不適  
當ノ告知ヲ為シ是亦採用セサル時ハ争推ノ訴  
ヲ之レニ為シ得ベシ

告知ヲ採用シタル時ハ州知事ハ採用シタル裁  
判所ニ争推ノ訴ヲ為スニ及バスト雖モ相手方  
ノ事件ヲ上告シタル時ハ州知事ハ上告ヲ受ケ  
タル上司ニ改メテ不適當ノ告知ヲ為サズ直ニ  
争推ノ訴ヲ為シ得ベシ

州知事ニ於テ政令官署ニ事件ノ帰スル事ヲ求  
ムルニハ其求ノ最初ヨリ上告ナル時ハ先ツ告

知ヲ為シ採用ナキ時ニ争權ノ訴ヲ起スナリ

争權ノ訴状

争權ノ訴状ハ十五日ノ期限内ニ出スヲ要ス  
十五日ノ期限ノ初日ヲ定ムルニ區別アリ即チ  
左ノ如シ

若シ初告裁判所或ハ上等裁判所ニテ告知ヲ採  
用セサル時ハ諸文書ヲ國代ヨリ送りタル日ヨ  
リ十五日ノ期限ト定ム

若シ初告裁判所ニテ告知ヲ採用シ相手方ヨリ  
事件ヲ上司ニ上告スル時ハ其上告ヲ上司ニテ

受ケタル日ヲ以テ初日トス

争權ノ訴状ニハ裁判所ノ決定及ヒ事件ヲ政令  
ニ歸スル所ノ法律文面ヲ記載ス可シ

争權ノ訴状ハ諸文書ト共ニ裁判所ノ記録ニ置  
キ都テ受取書ヲ取り置クベシ

争權ノ訴状アレハ其本事件ヲ裁判所ニテ辨理  
スルヲ停止ス之ヲ第三年結果月廿一日ノ法律  
中ニ載セ之ヲ背ク時ハ刑法ノ百二十八条ヲ  
以テ罰スルナリ

若シ争權ノ訴状ヲ十五日ノ定限後ニ記録ニ送

リタル時モ辦理ノ停止アリマ否  
甲ハ言フ辦理ノ停止アル可ラスト如何トナレ  
ハ司法ノ所置ヲ制限ナク妨クルヲ政令官署  
ニ許ス可ラス且千八百二十八年ノ命令書ノ十  
二个条ニ從ヘハ國代ヨリ政令官署ニ事件ヲ托  
スルノ求メアルハ定限中ニ文書ヲ記録ニ送ル  
ノ式ヲ欠カサルヲ以テナリ

乙ハ言辦理ヲ停止スベシト如何トナレハ停止  
ハ分推ノ原則ヨリ來ルモノナリ且千八百二十  
八年ノ命令書中ニハ定限ヲ越ルト越ヘサルト

ノ別ヲ為サス又辦理ノ停止ヲ命シタル第三年  
結果月ノ法律ヲ交換シタルヲ見サレハナリ

### 第二ノ期限

争推ノ訴ヲ裁断スルハ國議院ナリ

### 司法省ニ諸文書ヲ送ル事

國代ハ争推ノ訴状及ヒ諸文書ヲ記録ニ備ヘ置  
クベキ定限十五日間ニ双方或ハ其代言人ヲシ  
テ訴状ニ付キテ意見ヲ述ヘシメタル後都テノ  
文書ヲ司法長官ニ送ル司法長官ハ二十四時間  
ニ國議院ノ書記課ニ之ヲ送ル



司法省ニ諸文書ヲ受取リタル日付ケハ肝要ナ  
リ如何トナレハ國議院ノ裁断スベキ定限ハ其  
日ヲ以テ初トスレハナリ

争推ツ訴状ニ付スルヲ要スル文書ハ千八百三  
十一年ノ命令書ヲ以テ定メタリ即チ呼出シ状  
双方ノ陳情及ヒ告知書及ヒ裁判所ノ決定書ナ  
リ

國議院ニ裁断スル為メニ許シアル定限  
争推ノ訴ヲ國議院ニ於テ裁断スルノ定限ハ千  
八百二十八年ノ命令書ニ從ガヘハ四十日間ナ  
リ

千八百三十一年ノ命令書以來司法省ニ文書ヲ  
受取リタル日ヨリ二个月ト定メ國議院ノ決定  
ヲ事務ノ歸スル官署ニ報知スル為メニ一个月  
ノ猶預アリ若シ此期限ヲ越ユレハ争推ノ訴状  
ハ無用ト為シタルト見做シ最前事務ヲ受ケタ  
ル裁判所ニテ辦理ス

争推訴状ノ辦理方

國議院ニ於テハ辦理ノ方法ハ聴訟事務ト同様  
ナリ故ニ聴訟事務課ニ於テ吟味ヲ遂ケ辦理ノ

草案ヲ作り其後聽訟事務ノ為ニ設ル拾段ノ  
集會ニ於テ評定ス此評定ハ口舌ヲ以テシ國代  
ノ意ヲ聞キ及ヒ公明ナリ

國議院ノ決定

國議院ノ決定ハ左ノ如シ

第一争推ノ訴状ノ規則ニ合ハサルヲ以テ其旨  
趣ヲ顧ミスシテ之ヲ廢棄スル事

第二訴状ハ規則ニ合フト雖モ旨趣ノ条理ナキ  
ヲ以テ之ヲ廢棄スル事

但シ此兩項ノ決定アル時ハ司法ノ官署ニ於

テ舊ノ如ク事務ヲ辦理ス

第三訴状ノ規則ニ合ヒ其旨趣モ亦条理アルヲ  
以テ之ヲ受理スル事

但シ此項ニ於テハ司法ノ官署ヨリ其辦理ス  
ルノ權ヲ奪ヒ政令官署ニ歸スルナリ然レモ  
政令官署ノ何レナルヲ國議院ニ於テ指示ス  
ルナシ

進取ノ争推ヲ裁決スル國議院ノ決定書ハ破壞  
スルノ道ナシ

忌避ノ争推

既ニ説ク如ク忌避ノ争推ニ付テハ定則ナシ故  
ニ司法ノ官署及政令ノ官署ニテ双方共ニ巴レ  
ニ不適當ナリト拒ム時ハ何レニ適スルカヲ定  
ムルニニツノ方法アリ即チ左ノ如シ  
第一司法ナルモ政令ナルモ其官署ノ級ヲ追  
事務ヲ訴ル事

第二級ヲ追フ事ナク級ヲ越ヘテ直ニ國議院ニ  
裁判ノ歸スル官署ヲ指示スルヲ求ムル事

但シ國議院ニ於テハ訴ヲ受ケ巴レニ適セサ  
ルト拒ミタル官署ノ決定ヲ廢棄シテ其官署

ニ再ヒ送ルナリ

裁判ノ歸スル官署ヲ定ムルノ請求ハ通例ノ聽  
訟事務ノ手順ニ從フ而シテ忌避争推ニ付キ出  
セル制詰ハ進取争推ニ付キ出シタル制詰ト異  
ニシテ通常ノ聽訟事務ノ決定書ニ許シアル破  
壞ノ道アリ

政治ト宗教トノ分推

畧紀

政治ト宗教トノ関涉ハ種々ノ沿革アリ  
往古ハ宗教ハ佛蘭西國王ノ保護ヲ受ケタリト

雖モ漸々威權ヲ蓄積シテ中古ニ至リ益々其權  
ヲ擅ニシタリ聖王ルウノ世ニ至リテ佛國宗  
教ハ羅馬法王ノ軼ヲ脱スルヲ令シ法王ノ擅權  
ニ抵抗セリ

聖王ルウノ千二百六十八年布令ヲ出シテ羅馬  
法王ノ所得トナル利益ノ源ヲ塞キ神物ヲ賣リ  
金ヲ貪ルヲ禁シタリ且佛國ノ宗徒ハ其官位ニ  
升ル可キモノハ撰挙ヲ以テスルヲトナセリ  
千三百二十九年ヒリッブ王ノ評議役タルロエ  
ドキュニエール名僧侶ノ裁判ノ決定ヲバールマ

ニ告訴スルヲ許セリ此時サンスノ大祭司後  
ニクレマン六世ト改名シテ法王トナリタルロ  
エールドロゼ名僧侶ニ此舉ヲ拒ミタリト雖  
モ敢テ之ヲ顧ミスシテ遂ニ此規則ヲ設ケタリ  
千四百三十八年ヤール七世王布令ヲ出シテ聖  
王ルウノ布令書ヲ猶確定シ祭司ノ會合ヲ以  
テ法王ヨリ一層威權アルモノト定メ僧侶ノ事  
件タリト雖モ法王ニ訴ルヲ禁シタリ此布令書  
以來ハ羅馬ノ宿怨ヲ愈重子タリ  
千四百六十七年ニ此布令書ヲ廢シ千四百九十

八年ニ又之ヲ再興セリ之レニ依テ羅馬ト隙ヲ  
搆フ事遂ニ間斷ナシ

千五百十六年フラニソワー一世王ト口ヲ二十  
世法王ト約定ヲ結ヘリ此約定ハ即チ政治ト宗  
教トノ關係ノ原則タリ此約定書ヲ以テ祭司ヲ  
命スルニ撰挙ヲ以テスルヲ廢シ其人ヲ指示ス  
ルヲ國王ニ托シ之ヲ命スルヲ法王ニ托セリ又  
羅馬法王ニ歲入ヲ給スル事ヲ再興シ裁判ノ權  
ヲ法王ニ歸シタリ

此ノ如ク法王ニ英フル所ノ利益多シト雖モ猶

満足セス千五百四十五年ニ至リ異教ヲ除ク為  
メ僧侶ニ拘ハル規律ヲ立ル為メ及風俗ヲ改ム  
ル為メニ會シタルヲタレント都ノ大祭司會ニ於  
テ政治ノ權ヲシテ殆ト及ハサラムルノ規律  
ヲ設ケ僧侶ノ裁判ノ決定ヲ政令ノ官署ニ許ル  
ヲ禁シテ法王及大祭司ニ裁判ノ權ヲ歸シ僧侶  
ノ事件ナレハ羅馬ニ呼出スノ權ヲ許シ政治ノ  
裁判役ノ呼出シニ應スルヲ大祭司ニ禁シ小祭  
司領ノ者ヲシテ其小祭司ニ歲入ヲ給セシムル  
ノ處置ヲ為ス事等ヲ許セリ

此規律ヲパイルマンニ於テ嚴シク拒ミ佛國ノ  
僧侶モ千六百八十二年ニ布令書ヲ出シ法王ノ  
擅權ヨリ脱スル為メニ四ツノ規則ヲ立テタリ  
即チ左ノ如シ

第一法王及ヒ宗徒ハ教法ニ拘ハリテハ天主ノ  
權ヲ繼クベシト雖モ政治ニ拘ハリテハ權ヲ及  
ボス可ラサル事

第二大祭司會ハ法王ノ權ニ勝ル事

第三佛國及佛國ノ僧侶ニ於テ用ヒ來ル所ノ規  
則及ヒ制度ヲ法王ノ權ヲ以テ漫リニ改制ス可

ラサル事

第四法王ノ裁判ハ佛國僧侶ニテ承諾シタル後  
ニ非サレハ確實ニシテ改ム可ラサルモノニ非  
サル事

此布令ヲ千六百八十二年三月廿三日ニ制誥ヲ  
出シテ國ノ法ト為シ之ヲ簿冊ニ載スルヲパー  
ルマンニ命シ神學校ニ於テ之ヲ教ルヲ命ゼリ  
アッサンブレーコンステラーアンストノ時ニコレ  
シアリテト名ツクル僧侶ノ裁判ヲ廢棄セタ  
リ宗教ノ自由ヲ布令シ政治ニ拘ワル僧侶ノ法

則ヲ設ケリ此法則ヲ以テ定ムルニ大祭司及小  
祭司ヲ職ニ舉ルニハ住民ノ撰挙ニ托スト之ヲ  
命スルハ法王ニ於テセスシテ大祭司ニ於テス  
ト大祭司ノ領地ノ境ヲ定ムルニハ法王ヲ加ヘ  
テ政治ノ官署ニ於テスト僧侶ハ政治ノ建國法  
ニ後フノ誓ヲ為スヲ要スト  
主宰職ノ項ハ宗旨ニハ更ニ關係セス第三年ノ  
建國法ヲ以テ宗教ノ自由ヲ布令シ宗旨ノ費用  
ニ金ヲ給スルヲ信者ノ意ニ任セ國ヨリ金ヲ給  
スル事ナシト布令シタリ

宗教ト政治トノ罅隙ヲ稍々和ラケタルハコニ  
シル職ノ時ナリ第一等コニシユルハ僧侶ノ人望  
ヲ得ニカ為ノニ舊教ヲ再興シ法王ト約定ヲ結  
ヘリ此約定ハ即チ政治ト宗教トノ分推ヲ定ム  
ル原則ナリ

### 現今ノ制度

政治ト宗教トノ分推ノ規則ハ第九年稔月廿六  
日ノ約定書及其附載ノ个条及第十年萌芽月十  
八日ノ法律中ニ記載アリ此等ノ文面ヲ千八百  
五十二年ノ建國法ノ一个条及二十六个条ト恭

考スベシ

千八百五十一年ノ建國法ノ第一个条ヲ以テ千七百八十九年ニ布令シタル規則ヲ愈確定シタリ其規則中ニ宗旨ノ自由タル事ヲ載セタリ同二十六条ニ宗旨ノ自由ニ害アル法律ハ之ヲ布令スルハ上院ニテ拒ミ得ベシト記ス

第九年稔月廿六日ノ約定書附載ノ个条及第十年萌芽月十八日ノ法律

第九年ノ約定書ハ「ピ」七世法王ト第一等コンシル「ボ」ナルトト結ビタルモノナリ此約定書

ヲ第八年ノ佛蘭西ノ建國法ニ從ヒ制法官ニテ確定スルヲ要ス然ルニ約定ノ个条制法官ニテハ不諧ノ件々アルベキヲ以テ第一等コンシル之ニ附載ノ个条ヲ加ヘテ之ヲ制法官ニ出シ確定セシノタリ此附載ノ个条ハ今日ニ至リ猶僧侶ヨリ故障ヲ述ブル所ナリ如何トナレハ第九年ノ約定ヲ結ブ時ニ當リテ全ク約セサル所ノモノナレハナリ  
約定書ノ一个条ニハ舊教ノ礼式ヲ行フニ政府ニ於テ國ノ安寧ノ為ニ要用トスル取締ノ法



則ニ從フヲ要スト載セリ

第十年萌芽月十八日ノ法則ヲ以テ約定書及附載ノ个条ヲ確定セリ此法則ハ宗旨ノ自由タル事ノ原則ト政府ニ歸スル所ノ取締及鑿察ノ權トヲ合セタルモノト云フベシ

第九年ノ約定書ハ千五百十六年ノ約定ニ習ヒ大祭司及中祭司ヲ指示スノ權ハ国王ニ歸シ之ヲ命スルハ法王ニ歸シタリ小祭司ヲ指示スハ政治ノ官署ノ許可ヲ受ケ中祭司之ヲ為ス祭司領ノ境ヲ定ムルニハ法王ト政府ト共議シ之

ヲ定ム

政治ト宗教トノ分權ハ附載ノ个条中ニ掲載ニタリ

宗教ニ拘リテ佛蘭西国法ニ準ル原則

第一宗旨ノ自由ナル事及一般ノ佛蘭西人ハ其宗旨ヲ論セス民推及政推ヲ受ケ得マキ事

第二政府ハ政治ニ拘リテハ宗旨ニ關係ナキ事及身分ニ付テハ僧俗ノ差別ナク民生ヲ定ムル

事

第三宗教ノ礼式ヲ行フニ取締ノ權ヲ政府ニ有

スル事即チ宗式ヲ行フニ制限アルヲ云フ  
千七百八十九年八月廿六日ノ民権ノ布令ノ十  
个条ニ若シ人異説ヲ唱ヘ国ノ安寧ヲ害スルニ  
至ラサレハシテ制縛ス可ラスト載セタリ  
第十年萌芽月ノ法律ノ一个条ニ宗教ノ礼式ヲ  
行フニハ政府ニ於テ作ル國ノ安寧ノ為メニ要  
スル所ノ取締ノ規則ニ從テ要スト載セタリ  
第四国ニテ許可シタル宗旨ノ事務ニ政府ノ加  
ハル事

宗旨ノ事務ニ政府ノ加ハル事

政府ハ取締ノ權アルヲ以テ国議院ヨリ種々ノ  
許可ヲ興フルナリ即チ左ノ如シ  
第一法王ヨリ出ス文書外国ノ僧會ノ文書国ノ  
僧會ノ文書及ヒ新教ノ諸文書ヲ布令スルニ許  
可ヲ要ス  
第二国ノ大僧會及大祭司領内ノ僧會及其他ノ  
會合ヲ起スニハ許可ヲ要ス  
第三宗旨ノ結社ヲ起シテ公行スルニハ許可ヲ  
要ス  
第四僧官ノ需用及祭式ノ為メニ土地等ノ受納

及公然タル宗旨ノ社中ニ贈遺スル物品ノ受納  
ノ為メニ許可ヲ要ス  
政府ハ非義ノ許ヲ聞クノ權アルヲ以テ又宗旨  
ノ事件ニ加ハルナリ

非義ノ許

非義ノ許ノ起本ハ僧侶ノ裁判ノ權ノ政治ニ侵  
入スルヲ避ル為メ千三百二十九年ニビエルド  
ギニエー氏ノ起シタル規則ヨリ来ルモノナリ  
非義ノ許ノ確實ナルモノトナリタルハアラニ  
ソワール一世王ノ出シタル年五百三十九年ノ命

令書以来ナリ

千七百八十九年「バール」マニラ廢シタル時ニ非  
義ノ許モ共ニ廢シタレ氏第十年萌芽月十八日  
ノ法律ヲ以テ彼之ヲ再興シ國議院ニ於テ之ヲ  
聽ク事ト定メタリ  
千八百十三年ノ制誥ヲ以テ非義ノ許ヲ聽クヲ  
上等裁判所ト定メタリ  
現今ハ國議院ニ於テ裁判スル事ト定リタリ  
非義ノ許ハ政治ノ官署ト宗教ノ官署ト互ニ不  
羈獨立シテ權ノ相犯スヲ防クノ方法ナリ故ニ

双方共ニ此許アリ

宗教ノ官署ノ非義ハ五箇アリ

第一権ヲ奪フ事及推ヲ過ス事

推ヲ奪フトハ他ノ官署ニ推ノ侵入スルヲ云  
フ推ヲ過ストハ已レノ権ノ制限ヲ越ルヲ云  
フ譬ヘハ民事ニ拘ハリテ婚姻ノ破談ヲ宗教  
ノ官舎ニテ言渡ス時ハ推ヲ奪フクルナリ若  
シ大祭司政府ノ承諾ヲ待タズレテ小祭司ヲ  
命スルカ或ハ政府ノ許可ヲ受ケスミテ宗旨  
外ノ事ヲ僧侶ノ講説スルカ或ハ政府ノ許可

ヲ得スシテ僧會ヲ起スルハ推ヲ過シタ  
ルナリ

第二國ノ法律及規則ニ背ク事

民生ノ官署ヲ經タル婚姻ノ証書ヲ見スシテ  
婚姻ノ式ヲ行フタル時ハ法律ニ背クナリ若  
シ市中ニ於テ其地方ノ取締ノ規則ニ従ハス  
シテ宗式ノ行列ヲ為スカ或ハ洗礼等ノ為メ  
大祭司ノ定メタル規則ヲ越ヘテ手数料ヲ取  
ルカナレハ規則ニ背クナリ

第三佛蘭西ノ寺法ニ背ク事

譬へハ若シ廢棄ス可ラサル官職ニ在ル僧侶  
ヲ寺法ノ式ニ背テ廢職スル事既ニムラン  
地ノ大祭司ハ廢棄ス可ラサルノ職タル小祭  
司ヲ命スル時ニ必ス先ツ辭表ヲ取り置キ後  
日隨意ニ之ヲ卑官ニ貶スノ預備ヲ為セリ千  
八百五十七年四月六日ニ此處置ノ非義タル  
事ヲ國議院ニ於テ布告セリ

第四佛蘭西社寺ノ自主ノ推ヲ損害スル事  
佛蘭西社寺ノ自主ノ推ノ舊原則ハ人ノ口碑  
ニ存シ千六百年代ノ法學者ピトリス  
名八十三

章ノ个条ヲ作リテ之ヲ編纂シタリ此大意ハ  
千六百八十二年ニ佛蘭西僧侶ノ布令シタル  
四个条ト同様ナリ

第五人民ノ譽レヲ害シ其良心ヲ乱ス如キ企及  
處置及罵詈

譬へハ無故ニテ葬埋ヲ拒ム等ナリ既ニ千八  
百四十三年ニシテローンノ大祭司大學校ノ生  
徒ニ洗礼ヲ行フヲ拒ミタル事ノ如シ  
僧官ハ國議院ノ許可ナクシテ其職ニ拘ハル所  
行ノ為メニ裁判所ニテ裁判ヲ受クベキヤ否

處置ノ懲戒迄ニ至ラス輕責ヲ以テ足レリトス  
ルモノハ無論非義ニ加ハルカ故ニ國議院ニテ  
非義ノ布告ヲ為スナリ然ルニ若シ僧侶民生ノ  
官署ヲ經タル婚姻ノ証書ヲ檢セスミテ婚姻ノ  
式ヲ為ス可ラサルノ制禁ヲ犯スカ又ハ僧侶ノ  
其講坐ニ於テ罵詈等ヲ為シテ罰スベキモノト  
ナリタル時ノ如ク非義ト刑法ノ違反トノ双方  
ニ関スル時ハ如何此論三派ノ別アリ  
甲ハ云フ裁判ヲ受クルニ國議院ノ許可ヲ要セ  
スト如何トナレハ第八年ノ建國法ノ七十五个

余ハ政府ノ官負ト見做シ難キ僧侶ニ當ツ可ラ  
ガレハナリ  
乙ハ云フ國議院ノ許可ヲ要スト如何トナレハ  
第十年萌芽月十八日ノ法則ノ八ヶ条ニ國議院  
ハ裁判所ニ送り得ルノ文面アレバナリ  
丙ハ云フ公事ト私事ト區別スベシト即チ國代  
ヨリ訴出ル所ノ公事ハ許可ヲ要セス害ヲ受ケ  
タル平民ヨリ訴出ル所ノ私事ハ國議院ノ許可  
アルニ非サレハ受理ス可ラサルナリ是千八百  
六十一年ノ駁議裁判所ノ論ナリ

如此公事ト私事トヲ分ツノ論ハ法律文面ニ原  
ツカサレハ法ヲ行フニ非スシテ法ヲ制スト云  
フ可キカ故ニ議論紛紜タリ  
政治ノ官署ノ非義ハ第十年ノ法律ノ第七个条  
ニ載セタリ盖シ法律及規則ヲ以テ僧官ニ為シ  
ニ保証シタル宗式ノ行ヒ及自由ニ政治ノ官署  
ヨリ害ヲ為ス時ハ又國議院ニ上告ヨリ依テ非  
義ノ訴ハ政治ノ官署ト宗教ノ官舎ト双方ノ推  
ヲ維持スルノ良法ナリ

出訴辦理及裁判

非義ノ訴ハ何人ニ限ラス関係アル人ハ皆為シ  
得ベシ

此訴ヲ為ント欲スル官吏或ハ僧侶或ハ平民ハ  
教部長官ノ調印アル明細ノ手續書ノ送ルヲ要  
ス教部長官ハ要スル所ノ教示ヲ受ルニ時間ヲ  
費ス可ラス  
教部長官ノ奏問ニヨリテ國議院ハ真事件ヲ政  
令ノ式ヲ以テ辦理ス即チ討論ナク又傍聞ヲ許  
サスシテ辦理スルナリ  
國議院ノ制法課ニ於テ辦理方ノ草按ヲ作り此

課ノ草案ヲ國議院ノ總會ニ出シテ評定ス  
國議院ノ決定ニ二様アリ

第一訴ヲ受ク可ラサルカ故ニ是非ヲ裁決スル  
ニ及ハスト言渡ス事

譬ヘハ明細ノ手續書ヲ教部長官ニ出ス事ナ  
ク直チニ國議院ニ出訴シタル時ノ如シ

第二訴ニ依テ是非ヲ評定スベキ事言渡ス事  
但シ評定ハ非義ナキ事或ハ非義アル事ヲ布

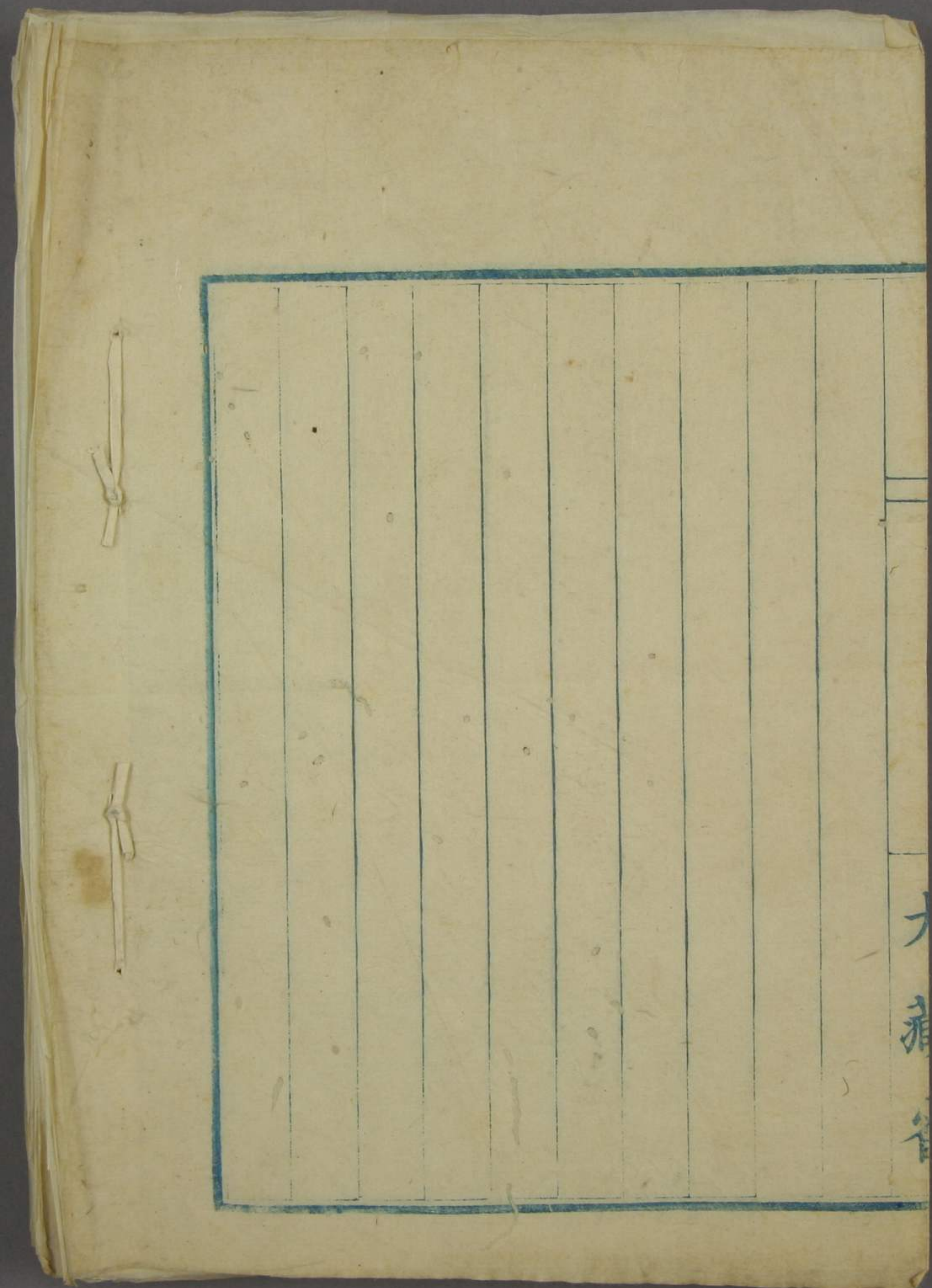
令スルト又時宜ニヨリ裁判所ニ送ルベシト  
言渡ストニヤリ

國議院ニテ非義アル事ヲ布告スル時ハ以後復  
タ非義アル可ラサルヲ命シ得ベシ然レモ非  
義ノ布令ヲ以テハ懲罰ニ至ラス唯敗斥スルニ  
至ルノミ



大藏省

大藏省



大  
痛  
管